

平成 26 年 9 月 10 日
台 東 区

台東区内で感染した可能性があるデング熱について

今般、千葉県より台東区内において感染したとみられるデング熱の患者が確認されたと連絡がありました。

患者は台東区内に勤務している千葉県在住の 50 代男性で、勤務地周辺で蚊に刺され、感染した可能性があると考えられます。

【区の対応】

- 国立感染症研究所の協力を得て、患者の勤務地周辺の蚊の生息状況調査を行った上で、必要に応じて蚊の駆除を実施します。
- 利用者が多く、蚊の生息好適地のある区立公園について、東京都の協力を得て蚊のウイルス保有調査を実施します。
- 区立公園等について注意喚起の掲示をします。
- ホームページやチラシ等により注意喚起をいたします。
- その他デング熱の対応については、厚生労働省、東京都及び関係自治体と連携し、適切な対応を図ってまいります。

【区民の皆様へ】

デング熱は人から人へ感染することではなく、ウイルスを保有した蚊を媒介して感染し、症状が出たとしても重症化することはまれで、通常一週間程度で回復しますので、冷静な対応をお願いします。

国内では、ヒトスジシマカ（主に日中に屋外で吸血する）がデング熱を媒介する可能性があるため、予防のためには蚊との接触を避け、刺されないようにすることが重要です。

蚊に刺されて発熱、発疹等の症状がある場合には、かかりつけの医療機関に受診して下さい。

【相談対応】

（1）台東区の相談窓口

●デング熱についての相談

台東保健所 保健予防課 感染症対策担当 03-3847-9476

●蚊の対策についての相談

台東保健所 生活衛生課 環境衛生担当 03-3847-9455

●受付時間

平日 8 時 30 分から 17 時 15 分まで（9 月 10 日（水）から 12 日（金）は 19 時まで）

（2）東京都の相談窓口

- 専用相談電話 03-5320-4179 平日 9 時から 19 時まで

【問合せ先】台東保健所

保健予防課長 植原 昭治

電話 03-3847-9413

生活衛生課長 吹澤 孝行

電話 03-3847-9419

<デング熱 Q&A>

Q1. デング熱とはどんな病気ですか？

- ・デングウイルスに感染しておこる急性の熱性感染症で、発熱、頭痛、筋肉痛や皮膚の発疹が主な症状です。

Q2. どのようにして感染するのですか？

- ・ウイルスに感染した患者を蚊が吸血すると、蚊の体内でウイルスが増殖し、その蚊が他の人を吸血することでウイルスが感染します（蚊媒介性）。
- ・デング熱の主な媒介蚊はネッタイシマカですが、日本には生息していません。ただし、日本のほとんどの地域（青森以南）で見られるヒトスジシマカも媒介します。
- ・ヒトからヒトに直接感染することはありません。また、感染しても発症しないことも多くみられます。

Q3. 重い病気なのですか？

- ・デング熱は、ほとんどは1週間ほどで解熱し症状は治まります。予後は比較的良い感染症です。
- ・まれに重症化して、出血やショック症状がみられることがあります。この場合も適切な治療が行われれば、多くの人は回復します。
- ・近年は日本国内で診断された患者で死亡した人はいません。

Q4. 治療薬はありますか？

- ・デング熱（デングウイルス）に対する特異的な治療法はなく、対症療法を行うことになります。ほとんどの患者さんはこの治療で後遺症もなく回復します。

Q5. 予防接種はありますか？

- ・デング熱に有効なワクチンはありません。そのため、予防は主に蚊との接触を避けることです。

Q6. 蚊の発生を予防したり、蚊にさされないためには、どうしたらいいですか？

- ・蚊の幼虫（ボウフラ）の発生防止のため、水が溜まった容器の水を捨て、片づけてください。
- ・雨水マス等、水がたまる所は、こまめに清掃しましょう。
- ・蚊が潜みやすい、やぶや草むらは刈取り、樹木は適切に剪定して風通しをよくしましょう。
- ・蚊の多い場所に行く時は、長袖シャツ・長ズボン等を着用し、肌を露出しないようにしましょう。
- ・網戸を設置したり、扉の開閉を極力減らし、屋内への蚊の侵入を防ぎましょう。
- ・必要に応じて、蚊取り線香や電気式の蚊取り器を使用しましょう。